

会 議 録

会 議 名	第1回ひょうたん島川の駅ネットワーク構想策定市民会議
開 催 日 時	令和4年12月20日（火） 午後1時30分～午後3時
開 催 場 所	徳島市役所8階 庁議室
次 第	1 開会 2 都市建設部副部長あいさつ 3 会長・副会長あいさつ 4 委員紹介（資料1） 5 議題 (1)ひょうたん島川の駅ネットワーク構想の概要について（資料2） (2)ひょうたん島川の駅ネットワーク構想の見直しについて（資料3） (3)意見交換 6 閉会
出 席 委 員	9人
傍 聴 者	0人

議題 (1)ひょうたん島川の駅ネットワーク構想の概要について (2)ひょうたん島川の駅ネットワーク構想の見直しについて	
事 務 局	資料2、資料3を説明
会 長	<p>説明ありがとうございました。ここからは委員の皆様からひょうたん島川の駅ネットワーク構想の見直しに向けて、忌憚のないご意見をいただければと思います。</p> <p>今後、取り組むべき現構想の課題についてのご意見、あるいはまちの事業創造や利用促進に向けた具体的な方策のご提案など、どんなことでも構いませんので、ご意見いただければと思います。</p> <p>それではテーブルの順番でA委員からお願いいたします。</p>
A 委 員	<p>席の順番で私からということなので、いくつかお話をしたいと思います。</p> <p>NPO 法人新町川を守る会に、ひょうたん島や吉野川、さらには十郎兵衛屋敷と広いエリアのひょうたん島周遊船の運航をお願いし、お客様をご案内しております。乗っているお客様から、船に乗って見える風景を紹介してほしいというご要望もありまして、船が一周23分で回る基本系のガイド文を作ってナレーションなども提供しております。この川の駅一つ一つが、地域の人々にとっては、これはなくてはならないものと</p>

	<p> というような位置づけになるというのが一番いいのではないかなと思います。船に乗るお客さんはもちろん、地域の人々もそれを見て楽しいというような周遊船になればいいなと思います。 </p> <p> ちょっと話は変わりますが、今 JR で徳島駅から阿波池田駅まで春と秋に観光列車で藍よしのがわトロッコという列車を発車しております。四国内にある観光列車の中で、2番目3番目を争うほどの人気を保っております。1番は伊予灘ものがたりで、その後がこの藍よしのがわトロッコということになります。藍よしのがわトロッコの何がいいのですかと皆さんに聞くと、徳島には駅弁がないのですが、その列車に乗ると駅弁が食べられる、唯一の駅弁、食べるものがある。もう一つは触れ合いがある。沿線からの人々がみんな手を振ってくれる。その触れ合いがとても温かく感じられるから嬉しいというお客様の心温まるお褒めのメッセージをいただいております。そういったことから、周遊船に乗っても、船に乗っている人も手を振る、あるいはそれを見ている人たちも手を振る、お互いに手を振ることによって、温かい触れ合いやおもてなしが生まれてくる、そういう場面がいっぱいあったらいいなと思います。そういう意味では船についての住民の理解、さらに深まって周知されるといいなと思っております。 </p> <p> もう一つは駅の活用ですが、かつて徳住橋のところに徳住花壇という、地元の方々が寒くなってくると焚き火をしながら寄ってくるという花壇がありました。工事の関係で花壇が小さくなって、集まってくる人も少なくなってしまったのですが、そういうふうに関わりがなくなると、地元の方々が集まれる場所、コミュニティが生まれるような場所がそれぞれの駅にあればいいなと思います。そのためには、乗船客に地元の方々が「いらっしやい、今日は良い天気だね。」と気軽に声を掛けられるような人々の出会いやおもてなしがあればいいなと思います。船を動かすことも大切ですが、そろそろ地域の人々がいかに関わっていくか、そしてその地域の人々が快くお客様を迎えていく、そういったところがポイントなのではないかと感じました。 </p>
<p>B 委員</p>	<p> 川を生かしたまちを世界的に言うと、ベニスとかバンコクの川なんかをよく思い出すと思うのですが、その時に観光だけではなくて、生活の足としても使われていることが大事なのではないかと思っています。川の幅とか栈橋から水面までの高さなど、色々な問題があるとは思いますが、バンコクのチャオプラヤー川のように何か物を売りにくるとか、先ほど駅弁の話がありましたけど、ウーバーイーツ的に別の船がおいしいお弁当を運んでくるとか、船の中で食べることはできなくても、それ </p>

	<p>それぞれの川の駅にくつろげるベンチなどがあって、川や船を眺めながら観光客だけでなく普段からみんなが徳島のおいしいものを食べるといった、そういう取り組みができたらいいなと思っています。</p> <p>そしてまた生活の足の一つとして、もし可能であれば、西新町に再開発で人口が増え、子どもたちが増えれば、そこに新しくできる川の駅を使って内町小学校まで通うとか、城東高校まで通うとか、マリンピアの方までいけるのであれば、文理小学校の子どもたちもそれに乗って行くとか、お天気の問題もあるとは思いますが、通学に利用することも考えられないかと思っています。</p> <p>もう一つ、降りた時に何もない、そういう話が出ておりますが、ハードなものを作るのはお金もかかることですし、それが本当に今の時代に合っているのかということがありますので、それぞれの公園なりをきれいに整備することで対応してはどうかと思います。東京外苑の銀杏並木を思い出すと、あそこで紅葉がきれいになるだけで、東京中の人が集まってくる、そういうニュースをいつも秋になると見かけます。今、幸町公園もすごく立派な木々が紅葉をして、みんな集まってきて遊んだり、落ち葉を掃いたりしておりますし、春には新緑を楽しんだり、夏には日陰を求めたりしています。そういうことがひょうたん島の中や周囲全部で木々の剪定の方法を見直し美しく立派に整えることができれば、何か新しい大がかりなものを作るのではなくて、今あるものをきちんと整備することで、人が自然と集まってくる仕組みができるのではないかと思います。</p> <p>またひょうたん島を面として考えたときに、整えられた街路樹のある街路を、今、提案されている自転車だけではなくて、トゥクトゥクやセグウェイなどの面白いモーターのものを利用して移動し、川の駅と川の駅を結ぶことで、次の船を待つのではなくて、次の駅まではちょっと中を通っていってみようとか、そういうことができれば、もっと面で楽しめるのではないかと思います。</p>
C 委員	<p>徳島県の観光について、東京の方でアンケートを取ったデータがありまして、共有をさせていただければと思います。徳島県の観光資源の認知度と興味度を掛け合わせたようなデータがございまして、認知度のところでは、阿波踊り会館や八十八箇所、大塚国際美術館などが上位にあげられていますが、その次にひょうたん島クルーズが来るような形となっています。行ってみたいという興味を持つのは、阿波踊り会館の次にひょうたん島クルーズが来ているというところで、知らなかった方に対しても、興味を持ってもらいやすいようです。徳島の観光の財産になる</p>

のではないかなというふうに考えております。

次に、徳島県全体で行ってみたいと思わない理由ですが、何があるのかよくわからないというのを一番挙げている方が多いというところで、やはり PR をもっと充実されて行く必要があるのではないかなというふうに考えています。私自身、子供の頃からひょうたん島クルーズに乗船し、周辺の風景やお店なども大好きなのですが、知らない方とか、特に県外の方というのが多いのかなというふうに思います。県民の方が、降りた先に何があるのかというのを、まず知っていただいて、愛着を持っていただいて、県民の方、市民の方から県外の方へ発信していただけるような情報発信をしていく必要があると思います。

その方法についてなんですけど、まず、周辺の市民の方の理解を促進していくというところで、川の駅や停留所の整備と一緒に、案内のサインや看板などがあれば視覚的にわかりやすいのかなというふうに思います。徳島市民県民の方は知っているかもしれないですが、初めて徳島を訪れた方はどういうふうにひょうたん島クルーズに向かうのかという案内のサインがあればいいのかなと思っています。

また、ホテルなどに泊まれた方というのは、まず来てみてから、じゃあどこに行ったらいいのかなと調べられる方も大変多いというふうに聞いております。そういう方に、こういうものがあるんだよというところで、ひょうたん島クルーズをアピールしていただければ、もっと利用者が増えてくるのかなと思っています。

あと、ベイエリアのルートや水上タクシーなどの運航ルートの拡大が行われていて、本当に便利に使いやすくなっているなというふうに私としても感じるんですが、そういったところもですね、降りてその先、例えば万代町、アクアチッタさんが整備を進められているようなお店や沖洲エリア、新鮮なつとく市というような観光スポットというか、県民・市民の方も楽しめるようなスポットというのがあると思いますので、そういったところをマップに纏めたり、あとはそういう時刻表やベイエリアのルートの運航時間などが分かりやすいような情報発信のツールを作っていく必要があるのかなというふうに思います。

今日はちょっとひょうたん島というキーワードで、ネットを検索してきたところなんですけど、一番最初にやっぱり徳島市役所さんのページがございまして、そのページに例えば、マップとかモデルコースを載せていただいたり、ベイエリアのルートの運航などの情報を載せていただいたりすると、もっと市民や県内外のお客様に分かりやすくなるんじゃないかなというふうに思っています。

	<p>もう一つのですが、利用者の拡大というところでですね、去年から大塚国際美術館さんに人気が集まっておりますので、観光地としても鳴門エリアが注目されているのかなと思います。あとは大阪・関西万博の開催も予定されておりますので、撫養航路も再開されていると思いますが、そういったところを活用して、鳴門の方から徳島市に来てもらうようなルートというものを作れば、もっと多くのお客様を徳島市の方に呼び込むことができるのではないかなと思っております。</p> <p>長くなりましたが以上です。</p>
<p>D 委員</p>	<p>旅行会社も、昔は発営業といいまして、徳島の人に県外や海外に行っていただくところから、逆の受入業、県外や海外から徳島に来てもらうという仕事にシフトしている転換期ですね、今は。徳島県は年間の延べ宿泊者数は全国ワーストに近いところであったり、正直、宿泊施設のキャパシティの問題もあるんですけども、新しいホテルを作ることは我々にはできませんので、その条件の中で、地域誘客、いかに徳島に来てもらうかということを考えながら、旅行前や旅行中で楽しんでもらえるような着地コンテンツというんですけれども、そういった体制などに力をいれて取り組み始めているところであります。</p> <p>有名観光地の鳴門や、大歩危、祖谷あたりは、着地コンテンツということに関しても、一定揃っているのですが、宿泊施設が集中している徳島市、およびその周辺、この辺りは本当に徳島県全体にとっても今後の鍵だというふうには思っています。</p> <p>先ほどA委員さんからご紹介があったように、阿波踊り会館、眉山のロープウェイ、十郎兵衛屋敷まで足を伸ばして、それにひょうたん島クルーズも掛け合わせて、また、ベニスというお話も出ましたけれども、水都徳島でプロモーションしていけば、これは本当に誘客につながるというふうに思っています。</p> <p>さらに川の駅の整備が進んでいけば、当然旅行会社としては商品化につながりやすくなりますので、反対する理由が全くないので、どんどん大変でしょうけれども進めさせていただきたいなというふうに考えています。</p> <p>意見の中にもありますけれども、現在は下船した場所から足に困るような状態というのがあるので、本当はサイクリングポートなどがあればいいんじゃないかと思いますが、これはすぐにどうのこうのというのは難しいと思いますが、それから実証実験もされていたようなんですけれども、観光客向けには、ポタリングという折り畳み式の自転車ですね、ブロンプトン、そういったものと組み合わせたら旅行商品化しやすい、すぐにも形にできるんじゃないかと思っていて、これ実はすでに取り組みを</p>

	<p>始めようとしているところであります。</p> <p>それから、ここにもご意見が出てましたけれども、観光客の利用というのはいくまでプラスアルファというふうに思うんですね。やはり最短ベースに近づけるためには、地元住民の方々の理解とか一定の利用、これが必要不可欠だと思いますので、ここが一番の課題というか、コスト考えずに便数を増やせば利便性が上がるんだと思うのですが、そうはいかないでしょうし、このあたりのバランスが課題なのかなと思っています。以上です。</p>
E 委員	<p>私、皆さんみたいにデータに基づいたこととか、理路整然と喋れる自信がないので、思いつきレベルでという感じですが、我々タウン誌を作っていて、先ほどおっしゃったみたいに観光客というよりか、徳島に住んでいる人がどれだけ利用してくれるかというのを考えたいと思うのと、徳島に住んでいる方はイベントがすごく好きで、いろんなアミューズメントパークがないのに、イベントに対するリクエスト、それを求めているというのは非常に多いなと実感していますので、年間通したイベントとひょうたん島のネットワークを絡められたらなと思っています。</p> <p>今のところ具体的に何かというのはわかりませんが、年間通して今だったら川からサンタとか書いてあったようないろんなイベントがあると思うのですが、それを月2回ぐらいのペースでやってひょうたん島に行ったら何か面白いことがあるというのが定着すると、足を運ぶ理由になるのかなと思います。</p> <p>それに関しては食べ物とか話もあったんですけど、結構キッチンカーが徳島では増えているので、1～2か月に何回かは各川の駅にいろんなキッチンカーが出て、例えば川の駅ブレンドを出してくれるコーヒー屋さんが出たりとか、そこでしか食べれない、川の駅に行かないと味わえないみたいなものを作ってもらって、それがおいしければ定着していくというのも面白いなという気がしました。</p> <p>結構、川の駅近くに公園が割とあって、都会だったら公園が多いというイメージなんですけど、なかなか徳島も大小はあるようなのですが、たくさんあるようなのですが、なかなか整備された遊具が少ないなという印象があるので、これを機に、川の駅降りたらすぐに公園があって、子どもが楽しみたいような遊具を設置したりとか、新しくこれから整備する川の駅には必ず公園があって、おしゃれな公園というより、ちゃんと遊具があったり、屋外でも木の積み木が楽しめたりとかという、あわわで木のおもちゃ美術館をやっているというのがあるんですけど、木</p>

	<p>のおもちゃとか、そういうのを楽しめる場所として、外にいながら木の積み木などが楽しめるとかというので、川と木とみたいな自然を楽しめるような新しい公園とか作れたら面白いなと思いました。</p> <p>これはアプリとか、いろいろなものを使って、川の駅はいろいろ回っているし、それぞれ個性があると思いますし、降りた場所での楽しさを味わってもらふ意味でも、スタンプラリーなどをして、実際にその近くにあるアミコだったりとかイオンモールだったりとか、最近にぎわいがちょっとずつ戻っている東新町商店街の中で使える商品券じゃないですけど、特典みたいなものを合わせて、街歩きが楽しくなったり、徳島県の買い物が楽しくなるような仕掛けというのを、どんどん提案して行って、それで関係人口を増やしていくと、皆さんそのひょうたん島に対する関わり方というのが生まれてきそうな気がするので、市民だけじゃなく、実際にそこで商いをされている方たちも、そういう方たちを、もっとこう引き寄せる何かを作りたいと思わせることもできたらいいのかなという気がします。</p> <p>最後に、きっと作られるんでしょうけど、川の停留所のエリアみたいな感じになっているので、ぜひ名前を付けてほしいなと思います。川の駅、川の停留所で、どこどこっていうだけじゃなく、一般公募とかで名前を募って、徳島動物園の名前公募とかもかなり多かったようなので、そういうふうな愛称とかキャッチコピーとか名前募集って、割と徳島の人喜んで思案を募らせるので、そういうところでPRして、名付け親になった人は永久ひょうたん島乗り組員みたいな感じで、ずっと乗り続けることができるみたいに、ひょうたん島との関わりがいろんなところであると面白く、かつ自分ごととして考えられるような仕組みができるのかなというアイデアレベルですけれども思いました。以上です。</p>
F 委員	<p>多分、ひょうたん島の川の駅って聞いたときに、クルーズが一番思い浮かぶと思います。というのは皆さん車であちこちに動かれると思いますが、私は、免許を取っていないので、徳島に帰ってきてからどうしようって。本当にここの近くに住んでいて、この界限でしか動いていない人間なのですが。この時にサマータクシーや水上タクシー、この構想を聞いた時にこれだと思いました。それでこの策定会議も参加させていただくということで、サマータクシーにも乗らせていただいたのですが、行きは水際公園に行って、じゃあ帰りどうしよう、バス？帰りに帰ってこれる水上タクシーをどこに頼んだらいいのみたいになって。そういうことは結局バスなんですけど、バスがたまたま時刻的に合う時間があったから良かったんですけど。市バスは時刻表も公表されていないので、そ</p>

れ遅れたら向こうでボーっと待たないといけないのかなみたいな。アクアチッタ行って、アクアチッタ行くと遊べて良かったなど、マリンピアも行って、ゴジカルがテレビで放映されていたので、これはいかんと思ったのですが、なんせ帰りどうしよう。

先ほど自転車の話がありましたが、折り畳みの自転車があるとかいうのはいいなあと思いました。それで水際公園から乗る、降りるは自転車も自分の自転車オッケー、それから車椅子もオッケーってなってますけど。ただ、それ以外のところでも、自分の自転車特に車椅子の方が乗れば素敵なのになって思いました。車椅子の方も、多分自分で運転されて、あちこち行かれるんだと思うんですが、ただ、やっぱり体が弱ってきて、みんな年を取っていきますので、そうすると車椅子でも乗れる、川の上を自由に動けるって、すごく素敵だなあというふうに思ったんです。

ただそのためには、水上タクシーの本数を増やさなければいけなくなる。ということは、それを運転してもらう人が必要になってくる。今は新町川を守る会の皆さんに、全てボランティアでいただいていますので。たくさん乗りたい人が来れば来るほど、それを捌いていく。特に、クルーズでも阿波踊りの時や連休の時なんかはいっぱい来ていますから。それを捌いているのもみんなボランティアでいただいていますので、人員の確保もそこにずっと甘えてばかりでいいのかなという気持ちがあります。

あと、もう一つは、情報発信が、県外なんかもちろんのことですが、水際公園の近くに住んでいる私でさえ、水上タクシーを利用してインスタにあげたら景品がもらえるというキャンペーンをやっていたのを知らなくて、フェイスブックでドライバーの人があげてくれていたのを見て、これは中村会長が載っているトートバッグをゲットしなければと、初めてインスタにあげたのですごく時間がかかって、おまけにちゃんとあがってるかどうかわからなかったので事務局に電話してあがってますかと聞いて、ついでにトートバッグ欲しいんですけどと伝えたら、ちゃんと届きました。本部の徒歩2分ぐらいの所に住んでいる私でさえ、結構水際公園に行っている者でも分かってないぐらいなので、ましてやみたいな感じがしました。

アミューズメント性についてですが、クルーズ自体がすごいアミューズメント性があるなど。普通に何もなくても水位が高いだけでも橋の下を頭を下げてくぐらなければいけないので、そこら辺のテーマパークの乗り物よりもスリルがあるんですよ。橋が低いから気をつけてねって、

	<p>言ってくれたりもするけど、言ってくれないときもあって。何もないときでも楽しめるし、冬には炬燵が出たりとかして、炬燵で寒い言いながらも暖かい。</p> <p>もちろん、アニメの時、橋の下にアニメの大きい絵があって。私は高校3年生の受験生の子を教えているのですが、その子がすごくアニメが好きでキャーキャー言ってますごく楽しそうで、その子に徳島を発展させるならどうしようか聞いたところ、アニメだと言っていました。オタクはもう強い、オタクは何があっても絶対参加すると。だから水際公園とか万代ふ頭もそうなんですけど、コスプレをして楽しんで写真撮って。そういうのをその時だけじゃなくて何かの時にいつもやってみたいになれば、県外からも絶対来るよと言ってました。そういう車に乗らない世代、さっきのお子さんの話のところですけども、子ども、お母さんとか小中高、大学生で車を運転しないような、その子たちが楽しめる、ここ来たら、車運転しなくてもすごく楽しいよね。1日すごく楽しいよなってなったら素敵だなって。私の希望ですけど、そのように思いました。</p>
G 委員	<p>よろしくお願ひします。冒頭申し上げたとおり、内町小学校はひょうたん島を校区とする学校でございます。あくまで学校の教育活動として、今実施している内容からお話をさせていただけたらと思ひます。</p> <p>まず、うちの小学校の全校的に生活科で取り組んでいる行事、2年生は必ずひょうたん島クルーズ、船に乗ってひょうたん島をずっと一周してくる活動をずっと長年続けております。中村理事長さんにも配慮していただいて、わざわざ寂聴棧橋のところまで迎えに来てもらって、そこからスタートしてぐるっとひょうたん島を回ります。2年生の子どもたち、かなりの子どもたちがすでにご家族と経験をしているのですが、それでも初めてのお子さんも結構います。ただ、帰ってきた時、例外なく、ものすごく生き生きとした楽しそうな、そして、今まで見よった、僕が見よった景色と全然違ふかった、そういう率直な子どもの声がいっぱい出ます。非常に魅力的な、このクルーズ自体が魅力的なものとの他の委員の皆さんがおっしゃるとおりだと思ひます。</p> <p>県外の私の友達を徳島に来てもらって案内すると、様々な観光地がありますが、ひょうたん島クルーズ、多分一番人気があつたような気がします、大人でも。こういう面白いことが近くにあるんやなああと、それぞれの地方の方言で言ってくれるんですけど、大変誇らしい気持ちになるところです。これが大きな観光資源になるということは、今まで皆さんが様々な方向でお話をされたとおりに思うので、これに関しては私から追加することはないかと思ひます。</p>

	<p>もう一つは、3年に一度なんですけど、ひょうたん島オリエンテーリングという行事を全校の学校行事として実施しています。これは、ひょうたん島の中にある様々な自然の、自然環境の素晴らしいところであるとか、歴史的な遺跡であるとか、いくつものチェックポイントを作っておりまして、そのチェックポイントにひょうたん島に住んでいる地域の方々に立っていただいて、様々な説明も子どもたちが回って行ったらしていただいています。いわゆる異年齢集団で、子どもたちが6年生から3年生はひょうたん島全体を回り、1年生2年生はまだ身体が成長していないので、ちょっと小さな城山近辺を回るようなグループに分けてオリエンテーリングをしています。この活動も非常に魅力的で子どもたち楽しみにしているのですが、もしこの川の駅を活用するのであれば、これをうまいこと取り込んで、ひょうたん島オリエンテーリングを船で回れないかなということの思ったりしています。例えば今まで子どもたちが歩いて回るから、かなり時間もかかってきますが、もし船でいろんなチェックポイントをまわって、そこでいろんな話が聞くことができれば、これは子どもだけじゃなくて大人の方にとっても、大変魅力的なイベントになるのではないかと考えています。</p> <p>狸祭りで祠巡りをやっておりますけど、あんな冊子とかを作って、ひょうたん島オリエンテーリングを川の駅をずっと回りながら、いろんなチェックポイントをまわって、スタンプをもらってとやっていると、結構楽しいのではないのかなと思ったりして、そういうところを学校行事から考えてみました。</p> <p>もう一つは、内町のまちづくり協議会がハゼ釣りを公民館行事みたいな形で実施しています。ちょうど水際公園近辺、新町川で子どもたちがハゼを釣るんですが、びっくりするぐらい釣れるんです。時折大きなボラがかかったり、チヌの小さいのがかかったりするんですけど、いわゆるこのひょうたん島周辺は、釣り場のポイントがいっぱいあります。それぞれ川の駅ごとに狙える魚種もかなり変わってきます。ハゼとか、万代町辺りに行ったらスズキとかもいますから、そういうふうな、それぞれの川の駅対抗釣り合戦みたいなイベントを組んでいっても面白いような気がします。最後に帰ってきて、さあ軽量しましょうと。一過性のイベントになるかもしれませんが、私が今やっているような教育活動あるいは地域行事からイメージした活動はそのようなものでございます。私からは以上です。</p>
<p>会 長</p>	<p>ありがとうございました。委員の皆様にもいろいろご意見を伺ってまいりました。続きまして長年周遊船の運航などに携わってこられておりま</p>

	<p>す副会長（市民会議）新町川を守る会の中村会長からのご意見をお願いします。</p>
<p>副会長</p>	<p>ひょうたん島で活動してきて 30 年、川を掃除し始めてからは 40 年ぐらいになります。昭和 54～5 年からやってきました。今日も掃除をしています。子どもたちもよく来るんですけど、今年は広島の中学生在が修学旅行に来ました。県外の学校で徳島のひょうたん島を周ると修学旅行に来てくれたのは初めて。クレメントホテルに泊まって、中学生が 70 人ぐらい。今市内の小学校とか市外の小学校では行くけど、県外が修学旅行で利用してくれたのは、初めてでないかなと思っています。</p> <p>ひょうたん島は、私が掃除をし始めた時は水が汚かったのですが、今はものすごく水がきれいになって、今の現状が当たり前のように思うんですけど。護岸の柵も非常に低いんです。ものすごく親水性があるんです。これは全国でも徳島だけではないかと思います。小学生が落ち込んで死んだことはない。大人は 10 人ぐらい死んだと、この 30 年か 40 年は。小学生は誰もなかった。</p> <p>それから、新町川の校区の内町小学校だったら父兄同伴でなかったら水際公園に行ったらいかんっていう時代が 2 年間ぐらいありました。今はもう誰でも来て、子供が十分行けるはず。川を、ひょうたん島をよくするっていうのは、やっぱり川が綺麗っていうこと。水が綺麗っていうことがまず一番。それはできてきた。だいぶできてきて本当に綺麗になってきたと思うんです。今は魚も 40 種類ぐらい、年間通しておるから。次はこのひょうたん島を良くしようと思ったら、道路が綺麗でないといけないと道路の花植えもしてきました。ひょうたん島がもっと良くなっていくためには、さらに眉山まで良くなっていく必要がある。眉山のロープウェイのところに桜を植えようかなと思っています。ひょうたん島が良くなったら、文化を繋いでいかないといけない。</p> <p>田宮川の方に行ったら、古庄さんの染物屋があります。あそこにも船着き場を作ろうかなと思っています。田宮川の方に船が着けて、藍染を体験できるようになったら面白くなってくると思います</p> <p>吉野川の方に行けるような船着き場ができる予定です。新町川を出たすぐのところです。</p> <p>徳島の藍っていうのは吉野川の生んだ産物ですから、やっぱりそういうような川の駅をもっと広げて文化を繋いでいく。今やっと 8 つある。最初のように両国橋だけだったんですけど、8 つ。ただ、ある程度きちんとした栈橋はない。ここまでの運動は 30 年ぐらいかかったんですが、両国橋の栈橋っていうのは全国ではあれ一つしかない。わからない人が</p>

見たらあれは当たり前なんですけど、あれはNPOが持つてるような栈橋ではちょっとないんです。みんな行政がやっとするんですね。

ひょうたん島の川の駅っていうのができる時には、やっぱり駅でなかったらいかん。駅に駅員がおらないかん。そうでないと発展はしません。ただの駐車場だけではダメ。今度できる西新町の再開発のところには駅ができて、人も多くなってきましたから非常に大きなものになってくるんじゃないかなと。あれができてくると、あの下でも食事ができるとか、かなり大きいものができますからね。最初はね、3メートルの幅で20メートルぐらいだったけど、これでは発展せんと県の方に言って、6メートルの幅で30メートルにして。もうこれ以上大きくはできんのですよ。これからあそこにこれができたら、いろんなことが考えていけるだろうと思います。

そこから西新町を再開発できたら、ものすごく徳島が変わってくるんでないかなと思います。あそこに必ず人が居るようなものができますので、人が居るっていうのが大事なだろうと思います。まだまだこれ、ひょうたん島もやらないといけないことがいっぱいあってね。一つ一つしていったら、本当に魅力のあるものになるんでないかなと。もっと駅ができて、駅に人が居て、イオンのところにも船着き場はあるんだけど人が居ない。人が居ないとやっぱりそこに行った時に話ができないから、昼飯どこに行ったらいいとかか。

行政はたくさんするんですけど、今新町川の一番河口に橋ができてるところは、あの名前知っとる人いますか？沖洲のところになんやけど、「新町川橋」っていうんですね。そんな名前つけたのでは発展しない。吉野川のところについてる「サンライズ大橋」、常に活字になってくるでしょ。新町川橋、ものすごく見事なものができてるんですよ。新町川橋や言うたら、みんなあれを公募してくれたら、もっといいものができてたんだと思う。国交省も勝手に決めちゃう、今日も国交省の人を船に乗せたから言うたんやけど。やっぱり徳島のハーバーブリッジとかね、なんとかそういうような名前つけて、シドニーのハーバーブリッジを姉妹都市として結ぶんだというような形で、全国からヨットが入ってくるのを迎えるような名前、やっぱりそういうようにあれを作ることによって、もっともっと広がっていくようにせないかん。だから市役所をお願いしたい、あれを仮称として、何回でも募集してください。ああ、このような橋が新町川橋ではいかんでないかと、もっと親しみがあるような、徳島がもっと発展するような名前にしたらいいというような形で橋の名前の公募を国交省もそれを待っとるだろと思います。

これから助任橋も今度新しくするので、私もいろいろ条件を付けているんだけど。将来もっと良くなるように。あそこはお城からつながった橋やから、あそこのところで、橋の上に立ち止まって、ゆっくり川を見るっていう、あの助任橋から見る眺めっていうのは最高なんですよ。これからあれをもっともっと活かしていくとね、橋作ったらやっぱり 50年、100年使えますから。あれをね、あそこのところで休憩して、なんか昔の歴史を感じるような橋、もう設計図も全部出きあがってるから、こんな時に言ってもいかなのだろうけどね。これから発展するような橋にしていくとまだまだ伸びていくと思います。

今、周遊船の乗船客が 5 万人、今年は 5 万人ぐらいまで来るんですけどね。西新町の再開発ができた時ぐらいには、うちの会の中では 20 万人にせんかというのですよ。やっぱり 20 万人の人を乗せるにはどうしたらいいかっていうことで、やっぱり川の駅も充実させるし、文化を繋いでいく。やっぱり吉野川をもっともっと活かしていったらね。吉野川のサンセットクルーズってやってるんですけど、すごく増えてきました。この日曜日、あの寒い寒い雪が降っている中を 4 人行きました。前が見えないように雪が降ったんやけど、それでも感動して帰ってきます。帰っていく時の会話ができないといけない。話ができると楽しくなる。もっともっとひょうたん島を楽しくしていく。

今、県庁前にも一昨年、船着き場を作ってるんですけど。ああいうところでも、あの上に家が建てれないといかん。ここは河川法でダメなんですけどね、やっぱり家が建ってそこに人が居ると、やっぱり来たら、甘酒どうですかとか、お酒どうですかとか、お酒からいったらいかんね。そのようなものができていくと、これはますます面白くなります。

まだまだ 10%か 20%しかできてないからね。これからは楽しみ。私も、今度も西新町できると、やっぱり山を良くしないとけない。徳島駅で降りれば、ロープウェイで下から上まで桜が咲いていると。パッと見たら印象が違うんよね。市役所にいろいろ言うと、あれは難しい、個人が持つとるから、難しいのが、個人が持つとるから。話しに行ったことあるかと聞いたら、ほれはない。難しいというだけで。やっぱり 300 メートルぐらいしかない山だからね。もつとるって言うたって、10 人かほこらですよ。100 人が 3 メートルぐらいもつとるはずない。そういうようなところに、やっぱり西新町ができてね、やっぱり山が良くなかったらあかん。やっぱり、一つの山ができたなら、場所の悪いところを良くしていかないと。そこを良くするというより、周辺を良くしていったらね、ひとりでに中心が良くなっていきます。周辺を良くしていくという

	<p>ことが、自分が一番良くなっていきます。ひょうたん島も周辺をもっと良くしていたら。文化を繋いでいく。吉野本町でも藍染しようというところがあるから、まず、田宮川に作ったら、今度はこっちもする。吉野本町もすると、そういうわけです。船着き場を作っていく。どこにもいけるという形を作っていく。そうしたら、私が思うより 20 万人くらい、そんな遠くないと思うんです。</p> <p>学校の周りでもね、内町小学校は協力してくれて、西の丸の上に子ども美術館ができています。橋の上に花が咲いて、その下に小学生が絵を書いている。あんなのでも、どこにもないようなものなんです。一つ一つやっていったらね、やりたいこと、いっぱいあるんですけど。行政にあんまりしてしてと言ってもできんです。船着き場でも、許可だけしてくれたら、私達でするっていうんだから、これからの地域づくりっていうのは、やっぱり自分たちがしていけないと。行政はできんわね。同じことができても 4 年も 5 年もかかります。やっぱり早いこと早いことやっていかないと。私がもう歳がいつとるけん早いことって。もう後ないから早いことって言うようになって、やっぱり一つ一つは、自分たちでできることをやっていく。そしたらできるんじゃないかな。良くなっていくように思っています。長々とすみません。</p>
<p>数名の 委員から</p>	<p>会長のご意見はどうですか。お伺いしたいんですけど。</p>
<p>会 長</p>	<p>皆様の方から、ひょうたん島川の駅ネットワーク構想見直しに向けて、様々な観点から建設的なご意見をいただいたところですが。私の方からも、中村さんの後で、一言程度、お話しさせていただきます。</p> <p>この川の駅のネットワークをどう使われるのを、伸ばしていくのか。観光という視点がやはり重要なんだろうと思いますが。その観光を伸ばしていくポイントになるのは、やはり住民が知り合いに伝えるっていう方法が一番これまでも、そういう面で伸ばしてこられたんじゃないかな。なので、もう一回観てみようというようなポイントになるようなものを、ちょっとずつコンテンツを更新していく、アップデートしていくような取り組みっていうのが重要なんだろうなと思いました。</p> <p>そういう点で、委員の皆様からいろいろなコンテンツを提案していただいたので、川の駅とか中心市街地などで提供していくというのを、これがなかなかうまくセットアップするというのも、観光的な土地勘というのを、どう活かしていくかというのは、なかなか簡単ではないと思いますが、それを実現していくのが一つは重要なんだろうなと思いました。</p> <p>それからですね、委員の皆さんから提案していただいた中に含まれて</p>

	<p>いることですが、途中でやはり降りてから、降りてまたちょっとそこを見て、そこでどうつないでいくか、もう一度来るまでずっと待っているとかいうぐらいに、頻繁に来るようになるとまた別なんです。その時間をですね、楽しめるぐらいのコンテンツがその駅にあればいいですし、また途中で帰ろうとなった時に、帰る手段ですね、歩いて帰れるぐらいのところだと、またそれも散歩道を作るとか、またちょうど遠い場合ですね、自転車という手段とかそういうのが、そこから、もうありましたらサイクリングのポートを、作ってしまうとかそういう面ですね。</p> <p>これも出てました。ポタリングという意見もありましたが、そういうのをうまく組み合わせて、交通手段としても、ずっと今行われているのは、ずっと乗っているだけになっていますがそれを、途中でも降りられて途中でも乗れるとかそういうのにアップデートしていくというのがポイントなんだろうなと思いました。</p> <p>私の方からは以上となります。どうもありがとうございました。</p>
<p>会 長</p>	<p>それでは、今後ですね、ひょうたん島川の駅ネットワーク構想の見直しに向けて作業が本格化していくと思います。検討の過程においては本日の意見、いろいろいただきましたが、これらを踏まえて充実した計画になることを事務局の方に期待しております。それでは、長時間にわたりました会議を進めさせていただきましたが、本日の議題は全て終了いたしました。本日は遠路よりどうもありがとうございました。それでは事務局の方にお返しいたします。</p>